

多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために 2015 年 6 月

KSKQ ファースト・ラン NO.94



『不思議な魚』辻 茉央氏

(2014 年度キラキラッとアート入選作品)

スタッフリレーコラム～こんなメンバーであんじょうやってます～

『二人三脚走』

初めてこのコラムを書かせて頂きます、賦句と申します。地域交流センターさんかく広場の放課後デイで、指導員をしています。よろしくお願い致します。

一時期休職させていただいた期間を除けば一年半、利用者の子どもたちと接し、当初は福祉も子どもの相手も未経験だった私も、最近は少しずつ慣れてきました。にぎやかな子どもたちとの日々を過ごす中で意識するようになったのは、利用者と指導員、という関係以上に、いち友人として関係を作っていこう、ということです。

楽しいことがあったときは肩を組んで笑い、辛い事があった時は真剣に耳を傾け、問題が起きた時は同じ立ち位置から考えて二人三脚の気持ちで解決を考える。引っ張るでもなく背中を押すでもなく、横に並んで走ってきました。子どもたちの成長は早く、知らぬ間に前を行かれそうになることも多々あります。

まだまだ福祉に関わり始めてから日も浅く、振り返るには早すぎるでしょうが、これからも一人の友人として、彼ら彼女らの横を楽しく走っていければと思う今日この頃です。

ふすく たつろう
(賦句 達郎)



「ヘルパー不足」から見えてくること・・・

全国的に不足していると言われるヘルパー。同業者と話をしていてもやはり「足りない」という話になります。では、「足りている」とはどういうことなのでしょう？また、当法人の箕面市障害者の生活と労働推進協議会（※以下、推進協）においてはどのようなのでしょうか？

推進協においてもやはりヘルパーは不足しています。しかし、単純に「足りない」という話ではないのです。使っているサービスの種類と障害や生活の状況によって、不足か否か、その状況は異なります。ご自身が必要としている日時にストレスなくヘルパー派遣を利用できているケースも多々あります。利用頻度にもよりますが移動支援や家事援助はヘルパー不足の印象が薄く、身体介護や重度訪問介護が明らかにヘルパー不足である、という感じでしょうか。しかしこれも一概には言えなくて、例えば重度訪問介護でも不足とまではいかないお宅もあります。男女差というのもあって、男性は（決して充足しているわけではないのですが）比較的不足感に焦りは少なく、出会いの中でご縁を見逃さないようにアンテナをはりながら日々のヘルパー派遣に対応しています。女性は職員が週に複数回泊まりに従事しないと障害当事者の生活が立ち行かないということも多々あり、泊まり介助に関わっていただけるヘルパーの獲得が急務という状況です。

そもそも「ヘルパー不足」ということの捉え方は、障害当事者とサービス提供責任者とは若干異なると考えています。

サービス提供責任者はニーズに応えようとヘルパー派遣の調整を行います。毎月の調整において「人がいない、困った、打つ手がない」という相当悩ましい状況にもならず、そこそこの工夫ややりとりで依頼日時に全て応えられると、妙な安心感が生まれます。一方、障害当事者からすれば単に依頼日時に応えるということだけではなく、そのヘルパーが自身の生活や価値観へ理解がある人物かどうか・どのような人柄なのかということも大変重要になります。依頼日時は全てヘルパー派遣できているけど、来るヘルパーに対して「色々思うところはある」となれば、必ずしもヘルパーが足りているとは思えないのではないでしょうか。（足りないということへの感じ方に違いがあるという意味で書いており、当然、サービス提供責任者もヘルパーの「質」には常にアンテナをはっています。あしからず）

また、こんなこともあります。体調不良などでヘルパーからキャンセルが入った場合に交代要員が全くおらずてんやわんやする…こんな場合もヘルパー不足を痛感するわけですが、もしも日々のヘルパー派遣は順調に調整出来ているならば、これは「急な依頼に対応できるヘルパーが不足している」ということになります。

他市であったケースですが、ある障害当事者は自身の生活を守る気持ちが強いゆえにことごとくヘルパーとトラブルになりヘルパー側から従事拒否が相次ぎ、結果、その事業所からは誰も派遣できない状態となってしまいました。ご本人からは「どうしてヘルパーがいないんだ」と言われるわけですが、事業所からなかなか本当のことも言えず…というものです。他市の役所から推進協に契約の打診がきたので事情を聞くとそういうことでした。似たようなケースですが、障害当事者のこだわりの強さから従事できるヘルパーが極端に限られ、結果、ヘルパー不足に陥っているということもあります。対人色が濃く相互の関係性で成り立つサービス故に、ヘルパーのみならず障害当事者にも人柄などが求められがちです。しかし、特に障害当事者においてはそれを求められるのはキツイ話です。性格・性質等は棚上げして、まずは「当然の権利の範囲での自分らしさ」は認められるべきなのですから。障害があってもなくても、誰にとっても自分らしさの確保というものは常に悩ましいことではあるのですが…。

これらのケースも単純に「ヘルパー不足」ということで位置づけずに、もしかしたらおおもとの原因が他の要素かもしれないなど、掘り下げて認識することが大切ではないでしょうか。ヘルパーが数としてそれなりにいれば解決するという単純なことではないと思うのです。

ヘルパーぶそく？



一概に「ヘルパー不足」と言っても辿っていけばその内容は「急な依頼に対応できるヘルパーが不足」とか「数ではなく質の不足」など様々です。ヘルパー不足という言葉だけがひとり歩きし、それで話が終わってしまうと危険です。一言で終わらせておけば良いこともあれば、それでは起こっていることの本質がいつまでも見えないこともあります。少なからずヘルパー不足という件に関しては細かくその内容を掘り下げて認識していくほうが良いと感じます。

サービス提供責任者からすると、ヘルパーの「質」の向上は日々の介護調整が出来ている状態が前提にないとなかなか追求しにくいものです。もちろん質から入っていったはいけないということではないのですが、そうすると現状ではヘルパー不足がもれなく付いてきます。質と量との同時進行を求めても同様かと。これは、だからどんな人でもまずは従事してもらいましょうということではなくて、現実を現実として認識し、その上で、何を引き算できるか、何をゆずらずにおこうか、どこまでのリスクを

背負うのか、物事を現実的に考え判断していく必要があるということです。「理想」や「希望」も欠かせませんが、それらを叶えるためにも、障害当事者も事業所もヘルパーも、まずは「現実的」になることが、解決に向けての第一歩ではないかと考えます。

推進協では何年も前から求人活動に力を入れてきました。チラシの配布・求人誌への掲載・ハローワーク・新聞折込・資格取得講座の自前開催など。ご縁があってヘルパーとして活動につながった方もいますが、不足感の解消までには至っていません。むしろ非常に厳しい状況になってきた面もあります。ヘルパーの雇用化や時間給の再考など処遇の改善にも取り組んできていますが、処遇や対価がヘルパー不足の解消に直接的に作用するようには思えないというのが正直なところです(現状の時間給が例えば最低賃金であれば話は別ですし、そうで



なくともヘルパーからすればより良くなるに越したことはないことはもちろん理解しています)。活動方針やそこにいる人のなにかしらの魅力など形になりにくいものがとても大切である気がします。推進協で長く活動して下さっている方々も、処遇や対価はもちろんです。それ以外の要素で続けて下さっている方が多いと見受けられます。

推進協を通して誰かに・何かに関わることの「やりがい」や「魅力」などを上手に発信して

いながら、自分たちも自身を日々高めるよう意識して、ご縁探しを続けていくことかなと思っています。また、事業所だけが取り組むのではなく、時に障害当事者にもご協力いただき、一緒にやっていくこともあればと考えています。



一朝一夕には解決しないことだからこそ、目の前の一步一步から、でしょうか。

まるはし しゅん たろう
(丸橋 舜 太郎)

人とつながる 支えあう

～障害があっても自分らしく暮らすために～

わたしたちは地域で共に暮らす仲間をサポートしています

ちょっと興味があるけど自分にできるかな？

面白そうだけど他に仕事があって・・・

資格持っていないし・・・資格はあるけど・・・

『自分らしく暮らす』とは 『何気ない日常生活』のサポートなんです

資格がない方でも条件が合えばサポートできます

あなたのライフスタイルに合わせた働き方

例えば 早朝のみの勤務

夕方・夜間のみの勤務

土・日・祝のみなどなどご相談に応じます

当法人は 1993 年に障害者の「地域での自立生活」「地域で共に暮らす」理念のもと設立しました

NPO 法人

箕面市障害者の生活と労働推進協議会

〒562-0001

大阪府箕面市箕面 4-8-30

TEL 072 (723) 3342

FAX 072 (723) 6506

E-MAIL JDW07270@nifty.com

大阪府指定番号 11 号

箕 面 市 後 援

◎重度訪問介護従業者養成研修講座◎

重度訪問介護従業者とは

長時間介助を必要とする障害者に対して、介助や社会参加の支援を行うための資格です。本講座は、重度訪問介護業務全般の知識・技術を身につけるものです。(注:ヘルパー1級・2級・3級、介護職員初任者研修課程、日常生活支援養成研修課程修了者、または介護福祉士、看護師資格所持者は本講座を受講せず活動できます)

開 講 日 10 月 3 日(土)・4 日(日)・10 日(土)
11 日(日)・17 日(土)の 9 時～17 時半
※予備日 10 月 24 日(土)

会 場 箕面市立障害者福祉センター「ささゆり園」
中央生涯学習センター

受 講 料 17,000 円

募 集 定 員 12 名 (申込み多数の場合抽選)

募集締め切り 9 月 12 日(土)必着

受 講 対 象 者 ①障害のある人の暮らしに関心があり
介助者として携わってみたいと思っている人
②全課程を受講可能な方 (高校生不可)

申 込 み 方 法 「往復はがき」に以下の事項を明記して、お申込みください。

- ① 氏名(ふりがな)②生年月日③性別④勤務先
⑤連絡先(電話番号と住所)⑥応募動機

【送り先】〒562-0001 箕面市箕面 4-8-30
NP0 法人箕面市障害者の生活と労働推進協議会
重度訪問介護従業者養成研修係

受講料貸付あり
ご相談ください。



- ☆ 研修修了者は、大阪府の管理する修了者台帳に記載されます。
☆ 提供された個人情報は、その目的以外に使用致しません。

▼▼ 主催・問い合わせ先 ▼▼

全身性のガイドヘルパー資格もついてきます♪

NP0 法人箕面市障害者の生活と労働推進協議会
電話 072-723-3342 FAX 072-723-6506
E-mail: JDW07270@nifty.ne.jp(担当:安東)

カリキュラム (重度訪問介護従業者養成研修)

月日	時間		講義名	実施場所
10 月 3 日(土)	9:20~9:35	0.25h	受付	障害者福祉センター 「ささゆり園」デイルーム
	9:35~9:50	0.25h	開講式・オリエンテーション	
	10:00~11:00	1h	介護概論	
	11:10~12:10	1h	介護技術入門 ①抱きかかえ方及	
	13:00~14:00	1h	び移乗の方法②車いすの移動介助	
	14:00~17:00	3h	③生活行為の介助	
10 月 4 日(日)	10:00~12:00	1h	重度訪問介護の制度とサービス	中央生涯学習センター 講座室
		1h	重度訪問介護利用者の理解	
	12:40~14:40	2h	コミュニケーション技術	
	15:00~17:00	2h	人権啓発に関する基礎知識	
10 月 10 日(土)	10:00~12:00	2h	緊急時の対応及び危険防止	障害者福祉センター 「ささゆり園」プレイルーム
	12:40~16:40	4h	医療的ケアを必要とする重度訪問 介護利用者の障害及び支援	
10 月 11 日(日)	10:00~16:00	5h	基礎介護実習	中央生涯学習センター 講座室
10 月 17 日(土)	9:30~16:30	7h	外出介護実習、重度肢体不自由者 介護サービス提供現場実習、介護 技術入門②車いすの移動介助	障害者福祉センター 「ささゆり園」プレイルーム (予備日 10 月 24 日(土)「さ さゆり園」)
	16:30~		修了式、交流会	



受付がありますので、講義の
10 分前には必ず集合してくだ
さい。

はんこ持参!

毎回講義終了後 10 分程オリエ
ンテーションがあります。

カエルのうた



其の 9 ～怖かったこといろいろ

電車に乗ろうと駅に向かう道で段差に引っ掛かって進めず困っていると、前方からやって来た親子連れが手を貸してくれようとした。その時、どこを持てば良いかわからない子供が、リモコンを握ったらリモコンがはずれ地面に落ちてしまった。そのことでリモコンのレバーに力がかかり、車イスがあらぬ方向に動き出した。少しして止まったから良かったものの、危うく歩道から落ちそうになった。その親子連れは何が起こったかわからず、何も言わずに行ってしまった。あの時歩道から落ちていたらどうなっていただろう。かなり恐怖だった。そのあと人と待ち合わせをしていたので、落ち着く間もなく慌てて駅に向かった。そして乗った電車はかなり混んでいて、私はほとんど身動きの取れない状態だった。停車駅で何人か乗り込んできた。その乗客のカバンがまたリモコンに当たり、車イスが動き他の客に体当たりしそうになった。一瞬だったこともあり、周りの客はまったく気づいていない。自分だけが慌てふためいていた。誰も怪我をしなかったから良かったが、かなり怖かった。

またある日、友人の家に行く途中たこ焼きのお店があったので、買って持って行くことにした。私の場合左手が動かないので、右手でたこ焼きの袋を持ちながらリモコンを操作することになる。するとしばらく進むと途中で車イスが止まってしまった。これは驚く！。こんな道の途中で車イスが止まったらどうしようもない。慌てふためいてリモコンを必死に動かしたが、全然進まない。どれくらい時間が経っただろう、また車イスが何事もなかったかのように動き始めた。なぜ止まったのかさっぱり分からない。あ～怖かった。今思うとたこ焼きの湯気がリモコンの隙間から入り込み、電気系統に何らかの影響があったんだろう。湯気だからしばらくして乾いたからまた動いたんだと思う。違っていたら他の理由は思いつかない。

こんなこともあった。友人と食事をしに行った時のこと。そのお店の入り口の所は少し坂になっていた。楽々登れるような坂だったので、登ろうとした瞬間、車イスが後ろに転倒し後頭部を打ってしまった。かなり痛かったが、それより驚いた。なぜ倒れるんだ。こんなことは初めてだ。友人が言うには、転倒防止装置がセットされていなかったらしい。そう言えば何日前、車イスが故障したので業者に修理してもらっていた。その時にセットしなかったんだろう。でなければ触ったこともない転倒防止装置がセットされていないはずがない。友人と一緒にいる時で助かった。車イスが転倒したら自力で起きることはできない。自分の住んでいるマンションの入り口の所も坂になっているのに何故倒れなかったんだろう。これも後で気づいたことだが、マンションの坂は幅が広いので斜めに登って上がる。けれども、お店の坂は幅が狭いので真っすぐ登るから真後ろに傾く。だから転倒したんだろう。

思えば障害を持ってから、怪我をすることが多くなった。まだまだ今の自分の状態に慣れてないんだろうな。早く慣れないと。(武藤 芳和)

パンのみみ



その 28 ～ セすじをただす ～

先日、今井家研修というのがあった。年に一度以上、利用者と関わる介助者が集まって、介助の留意点や技の伝えあい、ヒヤリハットを共有したり体調の変化などを確認し合う。介護の加算をうけるため、数年前から始まったと記憶している。

真面目にギュッと集中した研修後は、いつもお茶や軽食をしながら交流 TIME でリフレッシュ。今年のテーマは“持ち寄りランチパーティ”おにぎり、肉のたたき、サラダ、郷土料理、手作りパンに手作りケーキ、ディップにトン汁…多国籍上等の色彩豊かな料理を目の前に、みんなの口元がゆるんでふわふわ気持ちがあがってく。介助者らが揃って、くつろぎながら話す機会なんてめったにないから、あっちこっちでぺちやくちゃ合唱、話も飛びまくり、口にはお張りながらも軽快な笑い声が終始ひびいていた。

その光景を「あ～これがオンナ職人いまいチームなんだなあ」としみじみ見ていた。料理と同じ、20代～60代まで、世代や価値観、出会ったキッカケも今の暮らしも全くまちまちな人たち。ご縁があって、チームの一員になって、どの人も大切な仲間、大玉を転がすようにわたしの生活はつながっているんだなあと感じ入っていた。

けれど、その数日後、恩師との会話で「まさこの自立生活は絶妙な綱渡りをして続いてきて、とっても上手くいきすぎているとも言えるんよ」と指摘され、ハタとした。理想としてきた地域での暮らしには、支え手と自分自身との向き合いを繰り返す地味な作業が日々ついてくる。重ねても重ねてもどこかが崩れ、ゲンナリして手を抜き出すと、ほころびがだんだん広がりしっぺ返しを食らう。一人暮らし10年を越えたあたりから、無機質な疲れとともに、ココロは落ち着きたいな、安定したいな、の声にどんどん傾いていった。守りに入ると、堂々めぐり。外に思いを籠めてアピールする力はどんどん萎えていったんだな、と気づいた。

地域で生き抜くことは全くもって容易くない。いつも隣り合わせの厳しさは10年前とちっとも変わってなくて、緩慢になっている余裕なんて本当はない。地域自立生活は壮大で危険なプロジェクト。『うかうかしてないで、しっかり現実を見なさいよ』と、お尻をひっぱたかれた気分だった。

障害のある人たちが生きる世界は、地域の側から見てみると、おどろおどろしい扉の向こうにあるようだ。つながっているのに途切れている。‘知らない’‘わからない’が“恐れ”という魔物を生み出す。でも、わたしたちの営みは、地域社会との交じり合いなしには成り立たない。足元がしっかりしない。わたしの誇るオンナ職人チームだって、地域に出て、地道に種まきしてきたことが出発点にあるからこそ、しぶとく息づいてきた。閉ざされている人たちにイロメガネを外してもらうにはどうしたらいいのかな。下手くそでももっと知恵をしばらくしないと。そしてこの手探りは、地域自立生活を卒業する日まで続く。根性のいるサバイバルを楽しみながら味わいたいな。(いまい まさこ)

◎ 当法人のご案内 ◎

当法人では電話・FAX・Email・blog・来所・訪問等様々な方法で相談・支援を受け付けています。



【編集後記】

- ・先日、朝の出勤時に裸足でランニングしているおじいちゃんとすれ違った。それを見て、子どもの時に外で裸足で遊んでいた事を思い出した。最近の子どもは裸足はないかな？(職員 K)
- ・子どもの時よろくに外で裸足で遊ばなかったインドア派だったので、電車通勤で健康管理が危ぶまれる今、私も出勤時に裸足でランニングするくらいでもいいかな？(職員 B)
- ・春も終わりもうすぐ梅雨。洗濯物がなかなか乾かず室内干しも多くなり、洗濯物の大量な我が家がクリーニング屋さん状態になる季節でもあります(-_-)・・・(職員 K K)

編集／特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会 〒562-0001 大阪府箕面市箕面4丁目8番30号 電話 072-723-3342 FAX 072-723-6506

E-mail: JDW07270@nifty.com 郵便振替 00990-4-116066

発行人／関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4階